

正 誤 表

「免疫生物学（原書第7版 第1刷・第2刷・第3刷）」

下記の箇所に誤りがございました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	該当箇所	誤	正
58	14行目	NOD 蛋白は細菌の細胞壁に存在する <u>プロテオグリカン</u> を認識する	NOD 蛋白は細菌の細胞壁に存在する <u>ペプチドグリカン</u> を認識する
58	16行目	NOD2 はグラム陽性菌，陰性菌の両方の <u>プロテオグリカン</u> に存在	NOD2 はグラム陽性菌，陰性菌の両方の <u>ペプチドグリカン</u> に存在
58	22行目	細菌の <u>プロテオグリカン</u> を認識できる	細菌の <u>ペプチドグリカン</u> を認識できる
59	図 2.20 タイトル	膜結合型の蛋白，細胞質内の蛋白のいずれも細菌のセンサーとして機能し，細菌の <u>プロテオグリカン</u> を認識して NF κ B を活性化し向炎症性遺伝子を発現させる	膜結合型の蛋白，細胞質内の蛋白のいずれも細菌のセンサーとして機能し，細菌の <u>ペプチドグリカン</u> を認識して NF κ B を活性化し向炎症性遺伝子を発現させる
59	図 2.20 キャプション 3-4行目	細胞壁の <u>プロテオグリカン</u> である．細菌の <u>プロテオグリカン</u> と TLR-2 が結合すると，	細胞壁の <u>ペプチドグリカン</u> である．細菌の <u>ペプチドグリカン</u> と TLR-2 が結合すると，
59	図 2.20 上側の図内	細胞由来の <u>プロテオグリカン</u> は細胞表面の	細胞由来の <u>ペプチドグリカン</u> は細胞表面の
59	図 2.20 左側の図内	プロテオグリカン	ペプチドグリカン

2016年12月19日

株式会社南江堂